

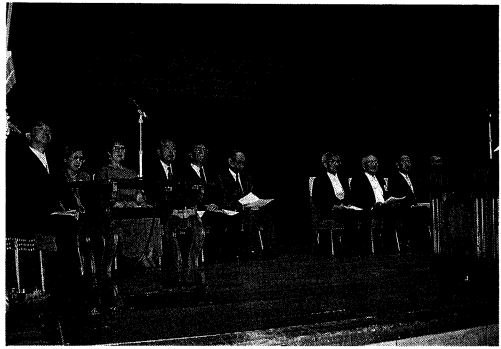
# 特別報告

佐 伯 裕 加 恵

## (一) 神戸女学院震災復興新築建物献堂式

震災復興新築建物として、ジュリア・ダッドレー記念館(大学教育研究棟)、アンジー・クルー記念館(中高部校舎)、メアリー・アンド・グレイス・ストウ学生寮(西館・北館)の三棟が建てられることになった。

思い起こせばこれら三棟の起工式は一九九六年二月二十三日、ソールチャペルで執り行なわれた。肌寒い日であったが、ソールチャペルは学院関係者、工事関係者で一杯になった。まず讚美歌第九〇番を歌う。会衆の歌声が一つになってチャペルに響き渡った。詩篇第一二七篇一節の朗読、祈禱に続いて城崎 進院長から、これから始まる復興の業は単に建物を建てるという物質的なことだけではなく、学院の立学の精神を表わすという精神的な目標に向けての歩みでもある、との力強い式辞があった。頌栄第五四一番を歌い、茂 洋学院チャプレン(当時)の祝福をもって式は終了した。このあと各工事現場を順に回り、それぞれの場所で歎入れ式があり、祈禱が捧げられた。また六月二十八日には茶室「松風庵」の移築起工式も行なわれた。「松風庵」は震災で倒壊した茶室「松籟庵」の代わりにと同窓生が寄贈して下さったものである。この日は式直前から雨が降り出し、屋外での式のため足場が悪かったが、学院関係者、工事関係者のほか大学・中高部の茶道部員も共に集い、テントの外で傘をさしながら式の進行を見守



神戸女学院震災復興新築建物献堂式

った。各代表者が鍬入れを行ない、新しい茶室に思いを馳せた。

この復興事業は、一九九七年三月二十五日、その最初の喜びを見た。学生寮の定礎式ならびに開寮式である。大学研究棟、中高校校舎に先がけて完成したメアリー・アンド・グレイス・ストウ学生寮は、寄宿学校として始まった神戸女学院の精神を最もよく表わし、最もよく伝える建物となるべきものといえる。春とはいえまだ風の冷たい中、式に参列する人々は寮の中庭に集まり、讃美歌を歌い、聖書の朗読を聞いた。そして建物の無事竣工を感謝する祈禱が捧げられた(『学院史料』第一五号四七頁参照)。それからこの学生寮に続いてアンジー・クルー記念館、ジュリア・ダッドレー記念館も完成し、一九九七年六月十一日に新築建物三棟の献堂式が行なわれることになった。この献堂式のために神戸女学院の在米支援団体であるコーベ カレッジ コーポレーション(Kobe College Corporation - KCC)は代表団を送って下さり、この方々の祈りと支援に直接お礼を申し上げる機会に恵まれた。訪日団の方々は一週間の予定で来日され、その間、法人、中高校、大学でさまざまな歓迎行事が催された。大学は献堂式の前日に大学デフォレスト記念館で昼食会を持った。パーティーは立食形式で、出席者は思ひ出話や神戸女学院の現況についてなど、思ひ出しの話題を語り合った。会の最後には代表団の方々のスピーチがあった。参加者が思ひのほかなかったのが残念であった。

六月十一日午前十一時、献堂式に先だつてクルー記念館とダッドレー記念館二棟の定礎式が行なわれた。式は黙禱をもつて始まり、厳かに執り行なわれた。出席者は晴れやかな顔で式に臨んでいた。学生寮定礎式でも歌った讃美歌第一九四番が梅雨空に吸い込まれていった。それまで降ったり止んだりしていた雨も定礎の除幕の頃にはあがっていた。除幕はたった一度きりのことなので失敗はできない、との吉田 明総務部長の言葉に参列者の間から笑い声がおこり、厳かな雰囲気は一転、祝賀の華やかさを帯びたものとなった。



ダッドレー館での茶話会

神戸女学院震災復興新築建物献堂式、いよいよ待ちに待ったこの時を迎えた。あの震災から二年半余の歳月を経て、岡田山のキヤンパスは新時代を迎える。講堂ロビーの受付には物心両面から神戸女学院を支えて下さった方々が続々と集まってこられた。喜びと安堵の表情を浮かべた同窓生、旧教職員の顔が見える。講堂内は華やいだ空気に満たされていた。讚美歌第七九番を唱和。山内祥史学長の聖書朗読、廣澤和人中高部長の祈禱のあと吉田総務部長による献堂の経過報告があった。続いて城崎院長は式辞で、苦難の時を共に耐えてきた同窓生をはじめ関係者、教職員全てに感謝の言葉を送り、皆の努力を讃えられた。讚美歌第三〇二番を歌ったあと、五人の来賓の方々からそれぞれ祝辞をいただいた。多くの人々に愛され、支えられてきた神戸女学院の復興を、講堂を埋めた会衆が共に祝った。ソプラノ独唱、感謝状贈呈、頌栄第五四四番の唱和、祝禱をもつて式は終了した。神と全ての人々への感謝にあふれた感動的な式であった。

式終了後、新築三棟ならびに茶室の披露とダッドレー館での茶話会が行なわれた。これら四棟は同時並行で公開されたので、来客の方々はそれぞれ関心のある建物から順に見て回られ、茶話会の会場にも三々五々、集まってこられた。茶話会の会場はダッドレー館一階の会議室。お話をしながら階段を下りてこられたり、廊下で知人を見つけて挨拶を交されたり、会場内でも廊下でもあちらこちらに人の輪ができていた。復興を祝う挨拶を交したあとは思い出話に花を咲かせる同窓生、お互いに苦労をねぎらいあう工事関係者方、会場内に懐しい旧知の方を見つけて挨拶を交す教職員。多くの人が集い、出入りする人の波は途切れることがなかった。やがて、来客の方々が去り、教職員だけが残った室内に、なお祝賀の余韻が漂っていた。